

教職開発講座 阪部 清 特任准教授



子どもや保護者との信頼関係の構築



キーワード コミュニケーション/ 信頼関係/ ESD/

どのような研究をなぜ行っているか

学校では、教員が子どもや保護者と信頼関係を築き、地域と連携・協力して教育活動を進めていくことが求められています。保護者からの信頼を得るには、日々の教育活動において子どもから信頼されていることがまず第一です。また、保護者に対して、折に触れて情報提供を行ったり、意見交換ができる場をもったりすることも必要です。ただ、このような取組はほとんどすべての教員が行っています。しかし、実際には「一生懸命努力しているのに、子どもや保護者、そして職場の同僚との人間関係がどうしてもうまく築けない。」と悩む教師がいることも現実です。そこで、様々な学校現場の実態を踏まえ、今、学校で生じている事例等を通して、子どもや保護者そして職場の同僚との人間関係やコミュニケーションの在り方について、分析して考察し、更に、子どもや保護者と心をつなぎ、職場の同僚との連携を図っていくことのできる、専門職としての教員のコミュニケーション能力をどのようにして身につけていくかを実践的に学べる取組について研究しています。

「子どもと教師」、「親と教師」、「教師と教師」といった人間関係の中で互いに理解し合い、一歩ずつ信頼関係を作り上げていくためにはどのような迫り方があるのか、そして、その中で生じてくる課題や問題となる事柄をどのように受け止め、どう解決につなげていけばいいのかということについて、普遍的に通用することを探るとともに、個々の教員の個性にあった迫り方も重要だと考えています。

大学院生には、学修している理論を基にしつつも、自分の個性等を踏まえた自分なりの効果的なコミュニケーションの在り方を探り、教員としての能力を高めてもらおうと授業等で取り組んでいます。

また、令和4年度から「ESDとしての教育実践」の授業を担当しており、学校現場でESDがどのように実践されているかを調査し、それらを踏まえて、院生自らが探究する分野や教科とESDとを関連付け、ESDについての実践力や指導力を身につける方策を探ることに取り組んでいます。

研究成果をどのように活用し、どのような貢献ができるか

修了生が実際に学校に赴任し、子どもや保護者、同僚とのコミュニケーションに困難さを感じたときに、修了生とともに対応を考えることをとおして、解決につなげたいと考えます。

たとえば、解決には及ばなくとも、相談してきてくれることが、心を折らずに教職を続けられることにつながると思っています。

研究成果ではありませんが、実務家教員として、私も院生とのより良いコミュニケーションをとおして信頼関係を築き、院生が修了しても相談をしてきてくれる教員でありたいと努めています。

これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

- 奈良県小学校若手教員育成研修
教諭2年目の先生たちの研修の指導助言
- 奈良県商業教育研究会主催生徒研究発表会の審査員
生徒による研究発表の審査をするとともに、生徒の研究発表を指導される先生への助言
- 全国商業高等学校協会の外部監査
奈良県商業教育研究会の会計について監査を行うとともに、活動内容等への提言